

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	山口県阿武郡阿東町鍋倉産 dumortierite
Author(s)	木野崎, 吉郎
Citation	広島大学地学研究報告 , 12 : 37 - 37
Issue Date	1963-03-30
DOI	
Self DOI	10.15027/52519
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00052519
Right	
Relation	



山口県阿武郡阿東町鍋倉産 dumortierite

木野崎 吉郎

Dumortierite found from the Nabekura Mine,
Yamaguchi Prefecture, West Japan.

By

Yoshio KINOSAKI

ABSTRACT: Nabekura mine is being worked for a pyrophyllite deposit found in rhyolitic rocks. The dumortierite is violet in colour, and is disseminated in a light greenish impure pyrophyllite ore or piercing it as a small quartz-dumortierite vein. The form of the dumortierite is prismatic and it usually occurs as radial aggregates.

本鉱物は昭和37年(1962)6月勝光山鉱業所の篠原俊憲氏が山口県阿武郡阿東町鍋倉所在の同鉱業所々属のろう石鉱床調査中に発見採集したものである。標本は転石として産したもので大きき拳大である。概観灰緑色(主として緑泥石による色)で、その中に灰紫色のdumortieriteを散点し、又白色の石英脈、灰紫色の美しいdumortierite脈がみとめられる。

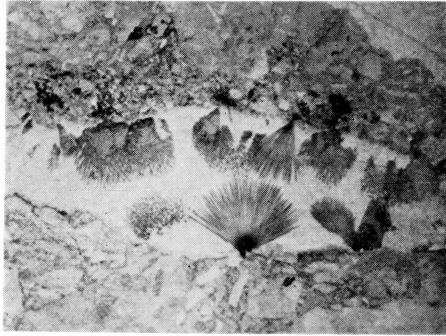
鏡検するに本標本はPyrophyllite化された凝灰岩であり、主に石英、Pyrophylliteよりなり、多量の緑泥石を伴っている。石英には石基を構成する細粒のものと斑晶状のものがある。

緑泥石は凝灰岩の石基を交代して不規則に産し、又は凝灰岩中に細脈状をなし、又は石英脈に伴ってその脈壁に産す。一般に径約0.2mmの板状結晶をなし、集まって放射状集合体をなしている。時として稍形の整った六角板状を示すことがある。六角板面を(001)面とすると、底面に平行の劈開完全である。多色性で、 $Y=Z$ 緑色。X 無色。 $Z=1.640$, $(-)2V$ 甚だ小($\pm 10^\circ$ 位), Xは底面に略垂直。光線の分散頗る大きく $\rho > \nu$, 複屈折甚だ小で十字ニコルで灰色であるが、藍色の異常色を示す。本緑泥石はWinchellの表によればaphrosideriteに近似する。

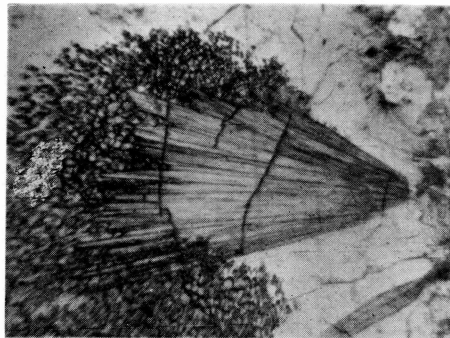
dumortieriteは柱状結晶よりなり一般に放射状集合体をなしている。一般に柱長3mm, 柱径0.5mm。互いに直交し柱の延長に平行な劈開完である。これを(100)の劈開と考える。この劈開と直交する不完全劈開(001)がある。多色性著しく、柱の延長方向をcとすると $c=Violet$, $a=b$ 無色, $X//c$, $(-)2V$ 甚だ小($\pm 20^\circ$ 位), $X'=1.665$, $Z'=1.690$, である。



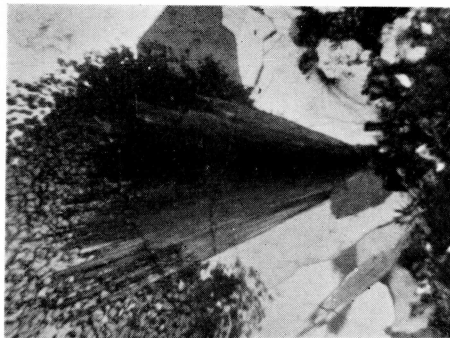
Radial aggregates of dumortierite in a quartz vein



第 1 図 不純パイロフィライト鉱を貫く石英脈中の dumortierite 柱状結晶が放射状に集合する。
単ニコル × 3



第 2 図 同上, 中央は柱状結晶の柱の縦断面で放射状集合を示す. 左は柱状結晶集合体の横断面.
単ニコル × 20



第 3 図 同上.

十字ニコル × 20